

超音波検査にて HCC と鑑別し得なかった FNH like lesion の一例

◎小林 真未¹⁾、西浦 哲哉¹⁾、藤田 寿之¹⁾、手嶋 翔一郎¹⁾、染矢 賢俊¹⁾
独立行政法人 国立病院機構 長崎医療センター¹⁾

【はじめに】Focal Nodular Hyperplasia (限局性結節性過形成) like lesion(以下 FNH-like lesion)は画像検査にて、肝細胞癌に類似する多血性の結節病変である。今回、アルコール性肝硬変に合併し画像診断上は肝細胞癌が疑われたが、病理組織学的検査では、FNH-like lesion と診断された 1 例を経験したので文献的考察を含め報告する。

【症例】60 代男性。既往歴としてアルコール性肝硬変、肝内胆管癌にて肝 S5 亜区域切除後。近医の腹部超音波検査で肝 S5 に低エコー結節を認め、造影 CT にて早期濃染し wash out は不明瞭な結節であった。造影 MRI では早期濃染し wash out は比較的明瞭で肝細胞相にて周囲より低信号であり肝細胞癌を否定できない所見であったため精査目的で当院に紹介となった。血液生化学検査では、HBs 抗原および HCV 抗体は陰性、AFP、PIVKA-II など腫瘍マーカーの上昇は認めなかった。当院での腹部超音波検査にて径 10mm の辺縁高エコー、内部低エコーの結節が認められ、造影超音波検査にて動脈優位相では早期濃染し、門脈優位相においても濃染持続、後血管相では不均一な欠損像を示し、肝

細胞癌が疑われ、穿刺による確定診断は行われず、腹腔鏡下肝部分切除術が施行された。病理組織学的検査では、内部は筋性血管の増生を認め、周囲に薄い皮膜を有する結節であり、アルコール性肝硬変に合併した FNH-like lesion と診断された。

【まとめ】アルコール性肝硬変に合併する FNH-like lesion は画像診断上、肝細胞癌との鑑別が困難であり穿刺による病理学的検査にて確定診断できない場合は手術に至ることも多い。MRI において T1 強調画像で高～等信号、T2 強調画像で等～低信号を呈する例が多いという報告があるが、本症例では T1 強調画像で低信号、T2 強調画像で等信号を呈し、報告されている例とは乖離しており、その他の検査においても肝細胞癌が疑われ、画像診断上の鑑別は困難であった。超音波検査をする上でアルコール性肝障害を有する患者では特に、肝細胞癌に類似する FNH-like lesion の存在を念頭に置き、検査に臨むべきである。

連絡先:生理検査室内線 3230